

博物館をたずねて

ポーランドの博物館④



# “白い鷲” 軍事博物館

Muzeum im.Orła Białego

“白い鷲”博物館があるスカルジスコ・カミエンナ周辺は、昔からの鉱工業地帯だった。この町にも国営弾薬工場があって、ポーランドの敗戦後はドイツ企業が肩代わりして映画「シンドラーのリスト」のような強制労働収容所が作られ、酷使された住民たちが命を失うこともしばしばであったらしい。せっかく結成した地下抵抗組織“白い鷲”も、間もなく摘発されて1200人以上が処刑されたと記録されている。

というわけで、博物館見学は当時の文書や写真、ユニフォームや小火器などで、正規軍、地下組織メンバーや住民の迎った不幸な運命を物語る室内展示で始まる。小火器の中にある9ミリ口径のピストル、ポーリッシュ・ラドム VIS Wz.35を製造していたラドム工廠（博物館の北方約40キロ）は、ポーランド軍が敗れるとドイツ占領軍に納品する皮肉な運命を迎えたのであった。

屋外に出ると、広大な敷地に100点余がずらりと並ぶ大型近代兵器の展示が目に入る。極めつけは“664型”として知られる59ノットの高速魚雷艇。冷戦時代にポーランドが7隻だけ建造した中の唯一の生き残りだと、博物館が自慢している小型艦艇である。

自慢のコレクションと言えば、修復中で赤錆だらけだが、STUG IV（IV号突撃砲）と掲示がある車輛もその一台に数えておこう。始めはIII号突撃砲と思ったのだが、それにしても転輪の数が多すぎる。お隣にあった車台だけのIV号戦車と照らし合わせて、IV号突撃砲 Sd.Kfz.167だと納得した私であった。

そのほか珍しい展示として、ソ連

が1958年から配備していた地対地ミサイルのSSC-2Bがある。MiG-15戦闘機を改装した本体に600キロの弾頭を搭載して90キロを飛ぶ性能があった。

AFV部門では、BTR-40に始まり、オープントップと天蓋付き両方のBTR-152、BRDM-1とBRDM-2といった兵員輸送車が並べられている。戦車はT-34の1輛きりだが、T-34とT-55戦車それぞれの車台を利用した装甲戦車回収車がかえって楽しい見物になっている。PT-76水陸両用戦車をベースにした85mm対戦車自走砲 ASU-85は、空挺作戦用とはいいながら、なかなかの凄みを感じられてならなかった。

航空機部門では、イリュージョンIL-14旅客機、スホーイ SU-7戦闘爆撃機、TS-8 ビエスなど常連のソ連機と、ポーランド版 MiG-17PFであるLim-5Pなど数機が並べてある。因みに博物館の名前になっている“白い鷲”は本来ポーランドの国章であり、陸海空三軍のロゴにもなっている。諸説ある起源の中に、ポーランド版金鷄の伝説がある。神武天皇を助け金鷄勲章の元祖になったのは金色のトビだったが、大昔ポーランド建国の祖が吉兆と判断したのは、夕日を背景にして飛ぶ白いワシであった。縁の深い日ポ関係の一つに猛禽が登場するのは奇遇だろうか。

（写真と文 木野 惲）

所在地 ■ ul. Słoneczna 90, 26-110 Skarżysko-Kamienna, Poland  
公開 ■ 毎日8時～日没。有料、写真・ビデオ撮影は別料金（フラッシュ使用可）。  
交通 ■ スカルジスコ・カミエンナはワルシャワ・クラクフ間の7号線道路上ほぼ中間地点、車・鉄道共に約4時間、同名の駅から博物館までバス便あり（7番と19番、約10分）。問合せ ■ 電話（041）25 20 231（国番号は48）  
Eメール: orzelbialy@skarzysko.org  
<http://www.orzelbialy.dmkhosting.com/>（ポーランド語）

ポーランド国産の664型魚雷艇（1970年代）



BRDM-1（右）とBRDM-2（左）



水陸両用戦車PT-76をベースとした対戦車自走砲ASU-85



ソ連製地対地巡航ミサイルSSC-2B Si 2 Sook a



修復中のIV号突撃砲。手前に外したザウコフ防盾が置いてある。